


海外派遣研修助成事業による研究の成果

研究者氏名	林 稔展 
所属機関	国立病院機構 九州医療センター
・研究に従事した外国の研究機関名	The International Convention Center of Barcelona
・参加した国際学会・会議名	The 19 th ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer
渡航期間	自 2017年6月27日 至 2017年7月3日
・研究内容 ・国際学会・会議内容	Evaluation of risk factors predicting delayed chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving low emetic risk chemotherapy (LEC): A prospective, observational, multicenter study (Poster Session)
<p>研究成果（要約：800字）</p> <p>“Evaluation of risk factors predicting delayed chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving low emetic risk chemotherapy (LEC): A prospective, observational, multicenter study” の演題で The 19th ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer にてポスター発表を行った。本研究は、軽度催吐リスク化学療法の制吐療法の最適化につながる新たなエビデンスを提供するものであり、がん患者の苦痛軽減や医療経済に貢献できるものと期待される。今回発表するデータは世界的に情報が少ない分野の新知見であり、セッション中もいくつかの質問をいただき、現状の課題や今後の展望についてディスカッションすることができた。</p> <p>また、Oral Session や Symposium では、大腸癌へのアフリバルセプトの有効性は BRAF 変異患者や RAS 野生型患者でより明らかな可能性を示す報告や日本人進行大腸癌の 1 次治療として FOLFOXIRI+ラムシルマブの有効性を検討する試験の Phase 1b の結果の発表では、Phase 2 の推奨用量が決定し順調に振興している旨が発表された。また、欧州臨床腫瘍学会のコンセンサス・ガイドラインをベースにして、アジア全体の進行大腸癌に対するガイドラインの作成が進行中であることが公表された。大腸癌の発生部位に基づく内容を入れ込むかどうか議論しているとのことであり、今後の発表が待たれる。免疫チェックポイント阻害薬の話題も多く、Phase 2 試験 KEYNOTE-059 コホート 3 の結果が公表され、未治療の PD-L1 陽性の進行胃/胃食道接合部癌にペムプロリズマブの単剤投与が有効な可能性が示された。肝細胞癌では、RESORCE のアップデート解析の結果が発表され、ソラフェニブ既治療切除不能肝細胞癌 (HCC) に対するレゴラフェニブの全生存期間 (OS) 延長効果は、観察期間を延長しても継続していることが報告された。本学会では、支持療法に関する演題は少なかったが、自身の発表演題に関して、海外の研究者とディスカッションできたこと、胃癌、大腸癌を中心とした薬物療法の最新情報や趨勢を把握することができ、非常に有意義な学会参加であった。</p>	